



図書館・美術館の事業と予定



佐野地区 サロン（職員 出張お話し会）

10月30日（火）佐野地区サロンに参加しました。指先体操・お話し・クイズ・読み聞かせ等、佐野の皆様と楽しくひと時を過ごしました。お楽しみでは、皆様ハロウィンの仮装を心よく承諾して下さい思い出の一枚となりました。



身延町立図書館（職員 出張お話し会）

身延町立図書館主催の「ちいさいお話し会」に参加しました。交流を兼ねたお話し会は毎年恒例となり10月は南部町の職員が身延町立図書館に行ってきました。皆で楽しいひと時を過ごしました。

図書館 12月の予定

・乳幼児リトミック教室

12月5日（水）午前10時30分～

講師：佐野貴子先生／長洞まゆ先生

・乳幼児お話し会 のんたんのへや

12月12・19日（水）午前10時30分～

（場所）図書館視聴覚室

・図書館映画会

12月22日（土）午後3時～

上演内容：アニメ

（場所）図書館視聴覚室

・「宮西達也 わーい なんだアーランド展」

12月16日（日）まで

（イベント）

12月8日（土）午後1時30分～

宮西達也 ライブペイント

12月9日（日）午前10時～

宮西達也 読み聞かせ講演会

ぜひ ご来場下さい。お待ちしております。

年末年始休館日のお知らせ

12月29日（土）～1月3日（木）までとなります。



美術館（企画展）

いよいよだよ！



2018年 **11月18日（日）～12月16日（日）**

近藤浩一路記念南部町立美術館
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館4時30分まで）
休 館 日：毎週月曜日

会期中には、ポストカードやカルタなどお店では手に入らないグッズを販売します。数に限りがあるので、みんな急いで来てね。

主催：南部町教育委員会
近藤浩一路記念南部町立美術館
後援：山梨日日新聞社 山梨放送 テレビ山梨 エフエム富士
山梨朝日新聞社 富士ニュース社 富士山新聞

近藤浩一路記念南部町立美術館
〒409-2213
山梨県南都留郡南部町大和360 TEL 0556-62-9292
南部町ホームページ <http://www.town.nanbu.yamanashi.jp/>

クリスマスイベント

宮西達也さんがやってくる

宮西達也さんライブペイント
12月8日（土）午後1時30分から
ぜひ絵を描いてくれるのかな？楽しみにね。

宮西達也さん読み聞かせ講演会
12月9日（日）午前10時から
やさしくお話を聞かせてね。

*この2日間、会場で絵本を購入するとサインがもらえるよ。

新刊・話題本コーナー



息子は思想検事だった父の記した「思想犯の保護を巡って」自己の所信を開陳した報告書を見つける。父の過去に向き合う自伝的長編小説。講談社



昭和・平成、数々の事件の裏面史を「貫通」する公安警察小説。『週刊ポスト』連載を加筆し単行本化。

小学館



タイトル: 宮部みゆき 全一冊
作家生活30年を迎えた宮部みゆきその礎となる単行本未収録の短編小説。著者による朗読を収録したCD付き。

新潮社



初期の作品から現在までの単行本未収録作品を精選した24篇を収録。皆川博子の物語世界の多彩さと奥深さを堪能できる。

KADOKAWA



宿敵、武田家との死闘。妻子との悲しき訣別。盟友、信長との最期の刻…。家康の真の姿を描く。『岐阜新聞』ほか地方紙連載を加筆し単行本化。幻冬社



伊能忠敬が作った日本地図「伊能図」で、江戸時代にタイムスリップ! 北海道から九州まで全国25か所の伊能図を、現代の地図と並べて掲載。

河出書房新社



いよいよ「働き方改革」がスタートする。働き方改革実現推進室で実務を担った著者が、改革のねらい、内容を徹底解説する。

日本経済新聞社



世界最大の広さを誇り、世界最深点をそのうちに秘める太平洋。人類最後の秘境=深海底はどんな世界なのか? 太平洋の謎を明らかにする。

講談社



週に一回、「お茶」の稽古に通って40年。稽古場での会話、稽古中に心の中にわき起こった感情、日々思うことなど、「日日是好日」の続編。

パルコメディア外事業部

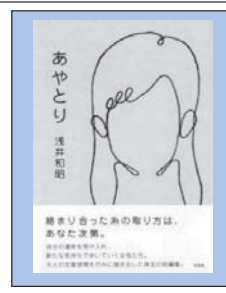


盆栽を通して、四季の移ろいや自然の風景を楽しんでみませんか? 盆栽の基本から、水やり、剪定など人気の盆栽家がやさしく伝授します。



南部町在住 浅井和昭氏

「あやとり」に続く第二弾、「酔芙蓉」が出版されました。朗月堂（県内書店）においてベスト5にランキングされた浅井さんの小説は、女性たちの恋愛感情が季節感あふれる酔芙蓉の花ごとく美しく優しく描き出されています。





蒙軒学舎 展示室だより③

「明治10年 近藤喜則 洋牛を飼う」

山梨郷土研究会編『山梨県郷土史年表』の明治10年の項には、「近藤喜則、洋牛を飼う。甲府錦町で搾乳、牛乳販売のはじまり」とあります。このことが地元の資料である『落穂拾遺（おちほしゅうい）』にも見られます。



この『落穂拾遺』（以下『拾遺』）という本ですが、嘉永三年（1850年）生まれの南部の人、薬種商の木内三郎が、大正10年前後に書いたもので、江戸末期より大正のころまでの、南部やその周辺の歴史・伝承・習慣・逸話等が絵入りで記述されており、幕末から近代へ移行する時代の雰囲気や人々の生活の息吹が感じられる大変貴重な資料です。また、この『拾遺』には近藤喜則に関する記事がいくつか登場します。著者木内三郎は喜則の18歳年下、家も近所ということで親しい関係にありました。『拾遺』の文章からは、郷里の偉大な先輩である喜則への畏敬の念が伝わってきます。

さてその中に、要約すると「明治10年初夏、喜則翁から私（木内三郎）に、翁の友人で沼津在住の江原素六のもとへ搾乳見習いに行くようにとの話があった」との記述があります。文中の喜則の友人

「江原素六（えばらそろく）」は旧幕臣で、この時期は静岡師範学校の校長を辞めた直後にあたり、沼津において乳牛の飼育に取り組んでいました。後年江

原は貴族院議員となり、また現在の麻布中・高に繋がる麻布学園を設立しています。

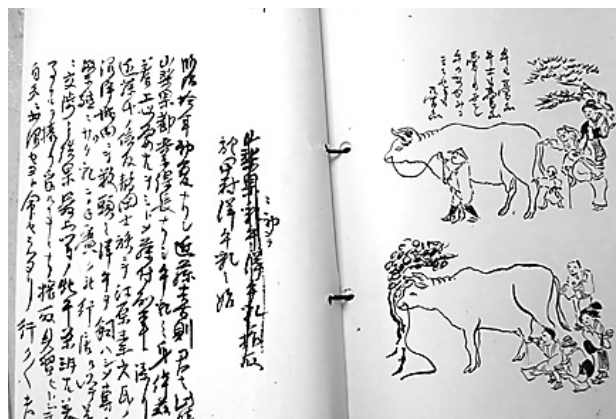
さらに『拾遺』には、（以下原文のまま）

「滞沼十日斗（ばかり）にして 搾取の伝を甘受し 且つ大の洋牛を引き出し 万沢一泊 南部・切石 甲府に着く道々乳袋はばみ 歩行せざるにて 日影に水を与え 乳を搾り 八方に手を尽くす 牛の歩みの由遅く そのところでなど二日三日にて 実にくさくさ疲れ果てたり 乳を搾り是を途中の無乳児および病人等に施すにあたかも神符与うるが如く

思わぬ馳走にあいたるなど奇談なり 万沢は吉田郵便の物置 南部は小伊豆屋空き家…（後略）」

とあり、搾乳法を覚えた三郎が大きな洋牛を沼津から甲府まで、苦勞しながら引き連れていく様子が絵入りで興味深く書かれています。

明治10年という年は、公選の県議会議員として喜則は幹事長の要職にある時期であり、一方地元にあつては義立睦合病院の経営（義立…各戸より毎日1銭を徴収し設立基金とした）を軌道に乗せるべく奔走している時期でもありました。山国の食料事情にも恵まれず、医療機関も整わない状況を改善し、人々が病苦から解放され健康に暮らすことは、喜則の生涯にわたる願いでした。この洋牛飼育も、喜則の健康・医療への熱い思いから出た実践だったのではないのでしょうか。



※『落穂拾遺』より

左ページには「於甲府洋牛ノ始」の表題が見られる